

自民党
横浜市議員(磯子区)

山本
たかし



磯子まちづくり
全力投球

誠実に実行
未来に責任
政務調査NEWS

平成28年5月号
号外

発行編集責任者
山本たかし事務所
(いそごの元気をつくる会)
〒235-0007 横浜市磯子区西町3-15
TEL: 045-349-2107
FAX: 045-349-2108

山本たかしホームページ yamamoto-takashi.jp

安心の小児医療は、地域医療ネットワークから。 神奈川県立こども医療センターを視察

少子高齢化がすすむ横浜市では、「子供の健康」を市政の重要課題の1つとして
います。平成25年(2013年)度から平成29年(2017年)度までの5か年を計画期
間とし、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的計画、「よこ
はま保健医療プラン2013」を策定し、その中で小児医療の充実に向けた施策を
明記しています。

横浜市の小児医療(小児救急医療を含む)の現状は、乳児死亡率が全国平均2.3[※]
に対し、横浜2.7[※]と若干高いものの、乳幼児死亡率ならびに小児死亡率は、**0.63、
0.26[※]**といずれも低い状況にあります。 [※]出生1000人に対する割合を示しています。

しかしながら山積する小児医療にかかる課題克服のために、さらなる診療体制の充実が急務であり、横浜市では「小児科
医を集約化することで、24時間365日小児科救急医療に対応する「小児救急拠点病院」の整備を平成13年度から開
始し、現在、市内7病院が『小児救急拠点病院』として指定しています。

このたびは、『小児がん拠点病院』に指定された『神奈川県立こども医療センター』を視察し、小児医療の現状と課題を
調査してきました。安心の小児医療をめざし、新たな施策提言につなげてまいります。



小児医療にかかわる基礎データ【平成23年度】

横浜市の小児人口(15歳未満)

0~14歳 483,380人 0~4歳157,037人

乳児死亡の推移 横浜市2.7人 全国2.3人

新生児死亡の推移 横浜市1.3人 全国1.1人

横浜市乳幼児死亡

死亡者90人 死亡率0.56(全国0.63)

横浜市小児(15歳未満)死亡

死亡者110人 死亡率0.22(全国0.26)

小児救急拠点病院(7ヶ所)

- 昭和大学横浜市北部病院(都筑区)
- 横浜労災病院(港北区)
- 済生会横浜市東部病院(鶴見区)
- 市民病院(保土ヶ谷区)
- みなと赤十字病院(中区)
- 済生会横浜市南部病院(港南区)
- 国立病院機構
横浜医療センター(戸塚区)

小児医療の課題 ① 不慮の事故(傷害)

新生児・乳児死亡率は、明治、大正、昭和初期から戦前までは高かったですが、戦後は大幅に減少しました。平成26年の
乳児死亡率は、1000人の出生に対し2.1人となっており、その死亡原因は先天奇形、変形および染色体異常が第一位、
周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害が第二位、乳幼児突然死症候群が第三位となっています。また別の調査で、**5
歳未満の乳児死亡率の国別比較では、日本は健康、教育、栄養状態のいずれも最高ランクで世界トップ**となっています。

世界のトップランクにある我が国の乳児死亡率ですが、1歳以上の子供の疾病別死因の上位に「不慮の事故(傷害)」が



yamachan's
voice ②

小児科医師の実態を知るデータとして、全国平均での病院における小児医師数3.6人があります。医師総数(平均)が25.1人であり、圧倒的に小児科医が不足している実態にあります。さらに**6歳未満の時間外受診での救急受診が年間1000万人を超えており、1病院あたり1日平均8.26人の患者を時間外(夜間)に診療することになり、小児科医の負担(勤務時間、睡眠時間)は大変大きいと言わざるを得ません。**患者、医師、病院管理者それぞれが不満をもつこととなります。

- ①患者：診療体制が不十分
- ②医師：夜間・休日の外来診療当番が頻繁であるため疲弊してしまう。
- ③病院管理者：夜間・休日診療は社会的な要請であるものの、患者数が少ないので赤字となる。

医療資源の集約化 → 診療体制の充実が急務です。

小児医療の課題 ④

小児がん・障害者(児)

小児がん対策や障害者(児)への医療提供、慢性疾患対応、小児在宅医療、移行期支援医療等の施設拡充が課題です。横浜市では、**平成26年6月、議員提案による「横浜市がん撲滅対策推進条例」を制定**しました。これをうけ、平成27年4月に新設された医療局が中心となって横浜市の医療政策を一体的かつ強力に推進していくこととなりました。そして**小児がん対策には、次の4病院が「横浜市小児がん連携病院」に指定**されました。

神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター	南区六ツ川2-138-4	小児専門病院 厚労省小児がん拠点病院
社会福祉法人恩賜財団済生会 横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	神奈川県 がん診療連携指定病院
公立大学法人 横浜市立大学附属病院	金沢区福浦 3-9	厚労省地域 がん診療連携拠点病院
学校法人 昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	

小児がんとは

小児がんは、小児がかかるさまざまながんの総称です。主な小児がんは、白血病、脳腫瘍、神経芽種、悪性リンパ腫、腎腫瘍などです。白血病や脳腫瘍が割合として多い状況ですが、種類が多く、治療法もそれぞれに異なります。主な小児がんとしては白血病が約40%、脳腫瘍が約20%が占めます。血液のがんである白血病や悪性リンパ腫を除き大人ではまれなものばかりです。現在、小児がんは手術治療、薬物療法(抗がん剤治療)、放射線治療、造血剤細胞移植などを組み合わせて治療します。小児がんは発見が難しく、がんの増殖も速いのですが、成人のがんに比べて化学療法や放射線療法に対する効果が極めて高いのも特徴です。ここ数十年の医療の進歩で、現在では70%~80%が治るようになってきました。小児がんは、数が少なく種類が多いため症例の多い病院での治療が必要です。子供は発達途中のため、治療ならび合併症がその後、何年もたってから現れるケースがあります。(晩期合併症)晩期合併症には成長・発達、生殖機能、臓器機能、二次がんに関するものがありますので、治った後も年齢に応じた長期にわたるフォローアップが必要です。小児がんでは治癒後も、晩期合併症においてはチーム医療が、生活面や教育面では社会的なさまざまなサポートが必要とされます。

横浜市の医療機関

一次医療圏：初期救急を含む一般の小児医療は、一次医療圏とする。

- 休日急患診療所(18区)/横浜市夜間急病センター/横浜市北部夜間急病センター
/横浜市南西部夜間急病センター

二次医療圏：専門医療及び入院、緊急手術等を要する小児救急医療は、比較的高度で専門性の高い医療サービスを提供し、入院医療サービスの完結を目指す二次医療圏とする。

- 横浜労災病院/横浜市立市民病院/済生会横浜市南部病院/昭和大学横浜市北部病院/
済生会横浜市東部病院/横浜市立みなと赤十字病院/国立病院機構横浜医療センター

三次医療圏：高度な専門医療及び重篤な小児患者に対する救命医療は、高度で専門的な医療サービスを提供する三次医療圏とする。

- 神奈川県立こども医療センター/市立大学附属市民総合医療センター
/聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

小児科輪番病院 夜間・休日の二次救急患者を受け入れる輪番病院

北部	《神奈川》大口東総合病院	《緑》 牧野記念病院
	《緑》 鴨居病院	《青葉》 昭和大学藤が丘病院
西部	《西》 けいゆう病院	《旭》 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	《旭》 横浜旭中央総合病院	《戸塚》 戸塚共立第二病院
南部	《磯子》 康心会汐見台病院	



提言

安心の横浜の
小児医療には！

① 高度専門小児医療体制を二次医療圏において確保すること

- 県を中心とした二次救急医療体制の確立と医療連携
- 救急医療に提供可能なNICU・PICU病床の確保

② 小児医療に従事する人的資源の充実を図られること

- 一般小児医療を行う診療所ならびに医師の確保 ●小児救急医療地域研修事業の強化

③ 適正受診に関する普及啓発活動を推進されること

- 不要不急な小児救急医療の抑制のための啓発

④ 在宅医療支援病院に対する診療報酬改善

⑤ 病院小児科の重点化・集約化(経済的誘導)

- 時間外診療(選定療養)、小児入院医療管理料の改善

大切な一票が、日本の将来を決める!!

2016年(平成28年)7月25日の任期満了に伴い、6月22日公示、7月10日投開票(予定)の第24回参议院議員選挙が実施されます。昨年6月17日に成立した公職選挙法改正によって、この選挙から選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられて初めての選挙となります。

さて、日本をとりまく外交、経済、社会環境はきわめて厳しい状況にあります。周辺諸国には、東シナ海や南シナ海での覇権追求を隠さない中国、核実験や弾道ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮、北方領土の軍事基地化をすすめるロシアがいます。我が国をこうした国々と協調かつ対等に国際外交を展開し、世界平和を維持していくためには、日米同盟や強力な米軍を抑止力として期待することは、きわめて現実的な政治判断です。また将来に向けた安心の国づくりビジョンと目標を正しくもつことも重要です。少子高齢化や人口減少がすすむ中、都市も地方も活力ある未来に向けた戦略をもち、実行することが重要です。あらたな成長軌道への挑戦は、政策の一致した政治勢力の結集なくして実現できません。そのためにも、国益を重視した外交・経済政策を実行する政治家が必要です。自由民主党では、神奈川選挙区に、三原じゅん子氏、中西けんじ氏の両名が挑戦します。「経済再生と社会保障の充実」をめざす我が国の政治へ三原、中西両候補予定者への期待が高まってきています。



経済成長と財政再建、
雇用創出に
自信をもってすすめます。

中西けんじ参议院議員



安心の社会保障と子育て支援に
全力投球します。

三原じゅん子参议院議員